地元農業生産法人による取組事例（荒廃農地を再生し新規産業を興す）〔北海道雄武町（おうむちょう）〕

１．地域農業の状況

○　雄武町は、北海道の東北部に位置し、オホーツク海に面する冷涼な地で、町の主産業は広大な土地を活かした酪農やホタテを始めとする漁業である。

○　近年の乳価低迷や飼料穀物高騰などの経営環境悪化による離農や農家の高齢化に伴い、平成20～25年度の５年間に422haの荒廃農地が確認され、町は酪農以外の農地活用を検討していた。

荒廃農地（再生前）

再生後、ダッタンソバを作付け

収穫期の「満天きらり」

「満天きらり」を配合したパンや羊羹

製粉機器

焼酎

２．荒廃農地再生利用の取組

取組主体	（株）神門	地区名	北雄武地区、中雄武地区、上幌内地区
再生面積	149.05ha （経営面積163ha）	取組年次	平成25年～平成27年
作付作物	ダッタンソバ	販路	全国の食品メーカー等

酪農跡地の広大な荒廃農地を再生し、地域農業の転換

○　雄武町上幌内地区は、酪農家の離農により消滅集落となり、約190haの農地が荒廃していた。このような中で町は、当該地区を始めとした町の活性化のため、農研機構北海道農業研究センターが開発したダッタンソバ「満天きらり」を地域の特産品とすることとし、前町長が立ち上げた農業生産法人（現在の「（株）神門」）が同地区をはじめ、町内の荒廃農地約150haを国の交付金により再生し、作付けを開始した。

ダッタンソバを酪農に代わる地域特産へ、地域に競争力のある新産業を興す

○　「満天きらり」は、「血圧安定に効果のあるルチンが豊富な健康食材」として注目され、全国展開する食品業者や道内飲食店から引合いがあった。
　これを受けて、同法人では、地域における６次産業化への取組強化や需要の増加に対応するため自社製粉施設を整備し、付加価値化を図るとともに町の特産物として事業展開することにより、町の活性化に大きく貢献している。

○　過疎化・高齢化・離農が理由で消滅した地区で発生した大規模な荒廃農地を再生し、酪農に代わる地域農業の転換をめざす取組が高く評価され、同法人は「第８回耕作放棄地発生防止・解消活動表彰事業」（平成28年５月）において、農林水産大臣賞を受賞している。

活用した支援策

H25～27　耕作放棄地再生利用緊急対策交付金（国）（再生作業、土壌改良、施設等補完整備）